

浜の活力再生プラン  
令和 7～11年度  
第 3 期

## 1 地域水産業再生委員会

組織名	和歌浦地域水産業再生委員会
代表者名	藪 豊（和歌浦漁業協同組合 代表理事組合長）

再生委員会の構成員	和歌浦漁業協同組合、和歌山市
オブザーバー	和歌山県

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	<p><b>【地域の範囲】</b> 和歌山市和歌浦地区（和歌浦漁業協同組合）</p> <p><b>【漁業の種類】</b> 船びき網漁業（3経営体）、一本つり漁業（14経営体）、刺し網漁業（1経営体）、小型定置網漁業（1経営体）、ワカメ養殖業（1経営体）（令和7年4月1日現在）</p>
-------------------	--

## 2 地域の現状

## (1) 関連する水産業を取り巻く現状等

<p>和歌山市和歌浦地区は紀伊水道北部に位置し、好漁場である和歌浦湾を主漁場として船びき網漁業によるシラス漁がメインとなっている。直近の令和6年の水揚量は115.2トン、水揚金額は94,143千円で、そのうち船びき網漁業は105.7トン、85,568千円となり、船びき網漁業が全体の9割を占める。船びき網漁業の主たるの漁獲対象であるカタクチイワシシラスは資源の特性上、漁獲量の年変動が大きく、漁業経費は燃料をはじめとして資材や人件費の上昇が続いている中、シラス漁に続く新たな漁業への取組や新たな特産品の開発は急務となっている。一方で、紀伊水道の船びき網漁業では令和5年頃より試行しながら取り組んでいる漁獲・資源管理の効果もあって、直近では水揚げが比較的安定しつつある。</p> <p>そのような中、これまでの浜プランにおいて、かつて多くの潮干狩り客でにぎわった和歌浦干潟でのアサリ復活や新たに干潟の干満を利用したカキ養殖に取り組んできたが、省力化や規模拡大、品質に大きな課題を残している。</p> <p>一方、当地区では「地産地消」、「都市との交流」を目標として魚食普及を推進してきており、平成20年度には地域ブランド「わかしらす」の立ち上げ、平成24年度には和歌浦漁港に整備された交流・情報発信施設「おとっとと広場」が開設され、土日祝日には、「わかしらす」や鮮魚等を目当てに和歌山市内外から多くの人々が訪れるスポットとなっている。さらに漁業者による観光地曳網や観光遊覧船など、企業や修学旅行の学生などを受け入れ都市住民との直接交流の場が形成されている。また、漁協青年部や女性部の活動が熱心に行われており、前述のアサリ増殖やカキ養殖に取り組み、令和2年には漁協直営の生産物販売施設「和歌浦漁港わか家」も活用しながら地域の発展に向け、新たな取り組みを進めている。</p>
--

## (2) その他の関連する現状等

<p>和歌山市和歌浦地区は関西圏の都市部からのアクセスもよく、また関西国際空港も比較的近く集客力は優れている。また、平成29年には日本遺産「絶景の宝庫 和歌の浦」としても認定され、景勝地として古くから関西有数の観光地でもあり、現在も複数の旅館をはじめ観光名所としてのポテンシャルは高いものがある。</p> <p>和歌浦漁港（おとっとと広場）では、年2回開催の和歌浦漁港朝市「しらすまつり」をは</p>
--

はじめ、「井まつり」や「和歌の夜市」など季節に応じたイベントが企画され、また漁港周辺には飲食店も増えており、かつての賑わいを取り戻しつつある。

今後も地域の活性化には、さらなる和歌浦漁港の活用を図り、和歌浦干潟（片男波）をはじめ、地域資源を活かした取組により交流人口を増やしていくことが有効と考える。

### 3 活性化の取組方針

#### (1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

--

#### (2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

地域の現状を踏まえた活性化の取組方針として、以下の取組を行う。

##### 【漁業収入向上のための取組】

○販路拡大、付加価値の向上及び消費拡大

- ①和歌浦湾で漁獲されたしらすのブランド「わかしらす」について、一部生産者による直接加工販売により漁港内で常時販売するとともに、イベント時の多くの来訪者にPRすることで、知名度向上に努め消費拡大を図る。
- ②第2期において特産品として確立を目指した養殖カキについて、干潟での養殖は解決が困難な課題があるため、地先海面での養殖や地元産以外の種苗（3倍体）導入を検討する。また干潟でのアサリについても生産の拡大を目指し、保護ネットの適切な交換による省力化を進め、稚貝の保護面積の拡大や生産量の拡大を目指し、ともにシラスに続く新たな地域の特産品となるよう生産の確立・拡大を図る。
- ③「和海もん」の販売を引き続き推進し、船びき網以外の小規模漁業の発展を目指す。

○水産資源の維持・増大

- ①紀伊水道全域の船びき網漁業者が取り組む資源管理協定内容（定期休漁）及びシラス来遊状況に応じた細やかな漁獲・資源管理（操業日制限、操業時間制限）の取り決めに遵守し、シラス資源や漁獲量の維持・増大を図る。
- ②和歌浦地先の増殖礁を保護し、マダイ、イサキ、キジハタ等の重要種の増殖を図り、また和歌山市の協力のもと重要種の種苗放流を行い、資源の維持・増大を図る。
- ③干潟におけるアサリ増殖のため食害生物の駆除を実施し、干潟保全と資源保護を行う。

##### 【漁業コスト削減のための取組】

- ①省燃油活動（減速航行、船底清掃）を実施し、燃油使用量の削減を図る。
- ②操業日数及び操業時間を削減し、燃油代ほか経費の削減を図る。
- ③省エネ機器を導入することにより燃油使用量の削減を図る。
- ④漁業経営セーフティーネット構築事業に加入し、燃油高騰対策を行い、燃油コスト増大による経営圧迫を軽減する。

##### 【漁村の活性化のための取組】

- ①和歌浦干潟でのアサリ再生の取組や環境学習、片男波海岸での観光地曳き網等、地域資源の活用した漁村活性化を図る。
- ②国、県及び市の支援事業の活用も図りながら担い手の確保・育成を行うとともに、認定漁業士が中心となって地域活性化を進め、魅力ある地域の発展を図る。

(3) 資源管理に係る取組

和歌山県漁業調整規則（許可の制限ほか）、漁業調整委員会指示（底生水産動植物採捕禁止、サワラ・クロマグロ採捕制限ほか）、漁業権行使規則、資源管理協定（瀬戸内海機船船びき網漁業（定期休漁））

(4) 具体的な取組内容

1年目（令和7年度） 所得向上率（基準年比）16.4%

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>○販路拡大、付加価値の向上及び消費拡大</p> <p>①地域ブランド「わかしらす」のブランド価値向上          漁協及び漁業者は、和歌浦湾で漁獲した「わかしらす」について、さらなるブランド価値向上のため、生産者による直接加工販売により漁港内で常時販売するとともに、年2回の朝市をはじめと井まつりなどイベント時の多くの来訪者にPRすることで、知名度向上に努め消費拡大を図る。</p> <p>②新たな特産品を目指したアサリ及びカキの生産確立          漁業者は、アサリ及び養殖カキについて、生産にあたっての課題解決を図り、生産の安定化、拡大を目指す。アサリについては保護ネットによる生産体制が確立している中、効率のよいネット交換時期を把握し、省力化を図り、生産量増加に必要な保護面積の拡大を目指す。養殖カキについては和歌浦干潟でのカゴ養殖の確立を目指したが、近年の夏場の高温化や低栄養塩化等による貝へのダメージ増大や身入り悪化のため、地先海域での展開を目指し新たな区画漁業権免許の取得を県に要望するとともに養殖試験を実施し、最適な養殖法を探索する。</p> <p>③漁業者直売「和海もん」の販売推進          漁業者は、当地区を含む和歌地区の漁業者直販地域ブランド「和海もん」の販売を引き続き実施し、知名度向上に努め、船びき網漁業以外の小規模漁業の発展を図る。</p> <p>○水産資源の維持・増大</p> <p>①船びき網漁業の漁獲・資源管理による漁獲増大          船びき網漁業者は、紀伊水道全域で取り組む資源管理協定（定期休漁日の設定）に加えシラスの来遊状況に応じた細やかな漁獲・資源管理（操業日及び操業時間制限）の取り決めに遵守し、シラス漁獲量の維持・増大を図るとともに、好不漁の波を抑えることで、単価のよいシラスの漁獲し、水揚金額の向上を図る。</p> <p>②地先増殖礁の保護及び種苗放流による資源増大          漁業者は、和歌浦地先の増殖礁を保護し、重要種の増殖を図り、また和歌山市の協力のもとマダイ、イサキ、キジハタ等の重要種の種苗放流を行い、資源の維持・増大を図る。</p> <p>③和歌浦干潟の保全による二枚貝増殖          漁業者は、アサリ等二枚貝増殖のためそれらの食害生物となるツメタガイ駆除を行い、干潟の保全と資源保護を行う。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>①省燃油活動による燃油使用量の削減          漁業者は、減速航行、船底清掃といった省燃油活動の実施を継続することで、燃油使用量の削減を図る。</p> <p>②漁獲・資源管理による燃油使用量の削減          船びき網漁業者は、前述の紀伊水道全体で取り組む漁獲・資源管理により、燃油使用料ほか経費の削減を図る。</p> <p>④漁業経営セーフティネット構築事業の加入          漁業者は、漁業経営セーフティネット構築事業に加入し、燃油高騰対策を行い、燃油コストの増大を軽減し、経営安定化に努める。</p>

<p>漁村の活性化のための取組</p>	<p>①地域資源の活用による地域活性化          漁業者は、和歌浦干潟でのアサリ再生の取組や環境学習、片男波海岸での観光地曳き網等、地域資源を活用した取組を進め、地域や都市住民との交流を深める。</p> <p>②漁業担い手の育成等による地域活性化          漁協及び漁業者は、国、県及び市の支援事業の活用も図りながら担い手の確保・育成を行うとともに、認定漁業士が中心となって魚食普及や各種取組により地域漁業の振興及び活性化を進める。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>つくり育て管理する漁業推進事業（市）          二枚貝増殖補助事業（市）          漁業経営セーフティーネット構築事業（国）          経営体育成総合支援事業（国）          次代につなぐ漁村づくり支援事業（県）</p>

2年目（令和8年度） 所得向上率（基準年比）16.8%

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>○販路拡大、付加価値の向上及び消費拡大</p> <p>①地域ブランド「わかしらす」のブランド価値向上          漁協及び漁業者は、和歌浦湾で漁獲した「わかしらす」について、さらなるブランド価値向上のため、生産者による直接加工販売により漁港内で常時販売するとともに、年2回の朝市をはじめと井まつりなどイベント時の多くの来訪者にPRすることで、知名度向上に努め消費拡大を図る。</p> <p>②新たな特産品を目指したアサリ及びカキの生産確立          漁業者は、アサリについては、保護ネットの増設により生産量の拡大を図り、直接販売施設やイベントで販売する。カキについては、沖合での生産安定化に向けた試験を継続する。区画漁業権が免許された場合、種苗（3倍体）を導入し生産を開始する。</p> <p>③漁業者直売「和海もん」の販売推進          漁業者は、当地区を含む和歌地区の漁業者直販地域ブランド「和海もん」の販売を引き続き実施し、知名度向上に努め、船びき網漁業以外の小規模漁業の発展を図る。</p> <p>○水産資源の維持・増大</p> <p>①船びき網漁業の漁獲・資源管理による漁獲増大          船びき網漁業者は紀伊水道全域で取り組む資源管理協定（定期休漁日の設定）に加えシラスの来遊状況に応じた細やかな漁獲・資源管理（操業日及び操業時間制限）の取り決めを遵守し、シラス漁獲量の維持・増大を図るとともに、好不漁の波を抑えることで、単価のよいシラスの漁獲し、水揚金額の向上を図る。</p> <p>②地先増殖礁の保護及び種苗放流による資源増大          漁業者は和歌浦地先の増殖礁を保護し、重要種の増殖を図り、また和歌山市の協力のもとマダイ、イサキ、キジハタ等の重要種の種苗放流を行い、資源の維持・増大を図る。</p> <p>③和歌浦干潟の保全による二枚貝増殖          アサリ等二枚貝増殖のためそれらの食害生物となるツメタガイ駆除を行い、干潟の保全と資源保護を行う。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>①省燃油活動による燃油使用量の削減          漁業者は減速航行、船底清掃といった省燃油活動の実施を継続することで、燃油使用量の削減を図る。</p> <p>②漁獲・資源管理による燃油使用量の削減</p>

	<p>船びき網漁業者は前述の紀伊水道全体で取り組む漁獲・資源管理により、燃油使用料ほか経費の削減を図る。</p> <p>④漁業経営セーフティネット構築事業の加入 漁業者は漁業経営セーフティネット構築事業に加入し、燃油高騰対策を行い、燃油コストの増大を軽減し、経営安定化に努める。</p>
漁村の活性化のための取組	<p>①地域資源の活用による地域活性化 漁業者は和歌浦干潟でのアサリ再生の取組や環境学習、片男波海岸での観光地曳き網等、地域資源を活用した取組を進め、地域や都市住民との交流を深める。</p> <p>②漁業担い手の育成等による地域活性化 漁協及び漁業者は国、県及び市の支援事業の活用も図りながら担い手の確保・育成を行うとともに、認定漁業士が中心となって魚食普及や各種取組により地域漁業の振興及び活性化を進める。</p>
活用する支援措置等	<p>つくり育て管理する漁業推進事業（市） 二枚貝増殖補助事業（市） 漁業経営セーフティネット構築事業（国） 経営体育成総合支援事業（国） 次代につなぐ漁村づくり支援事業（県）</p>

3年目（令和9年度） 所得向上率（基準年比）17.2%

漁業収入向上のための取組	<p>○販路拡大、付加価値の向上及び消費拡大</p> <p>①地域ブランド「わかしらす」のブランド価値向上 漁協及び漁業者は、和歌浦湾で漁獲した「わかしらす」について、さらなるブランド価値向上のため、生産者による直接加工販売により漁港内で常時販売するとともに、年2回の朝市をはじめと井まつりなどイベント時の多くの来訪者にPRすることで、知名度向上に努め消費拡大を図る。</p> <p>②新たな特産品を目指したアサリ及びカキの生産確立 漁業者は、アサリについては、管理可能な保護ネットを設置し生産量の安定化を図り、直接販売施設やイベントで販売する。カキについては、免許取得を条件に沖合での養殖を展開し、安定した生産を目指す。</p> <p>③漁業者直売「和海もん」の販売推進 漁業者は、当地区を含む和歌地区の漁業者直販地域ブランド「和海もん」の販売を引き続き実施し、知名度向上に努める。</p> <p>○水産資源の維持・増大</p> <p>①船びき網漁業の漁獲・資源管理による漁獲増大 船びき網漁業者は紀伊水道全域で取り組む資源管理協定（定期休漁日の設定）に加えシラスの来遊状況に応じた細やかな漁獲・資源管理（操業日及び操業時間制限）の取り決めを遵守し、シラス漁獲量の維持・増大を図るとともに、好不漁の波を抑えることで、単価のよいシラスの漁獲し、水揚金額の向上を図る。</p> <p>②地先増殖礁の保護及び種苗放流による資源増大 漁業者は和歌浦地先の増殖礁を保護し、重要種の増殖を図り、また和歌山市の協力のもとマダイ、イサキ、キジハタ等の重要種の種苗放流を行い、資源の維持・増大を図る。</p> <p>③和歌浦干潟の保全による二枚貝増殖 アサリ等二枚貝増殖のためそれらの食害生物となるツメタガイ駆除を行い、干潟の保全と資源保護を行う。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>①省燃油活動による燃油使用量の削減 漁業者は減速航行、船底清掃といった省燃油活動の実施を継続することで、燃油使用量の削減を図る。</p> <p>②漁獲・資源管理による燃油使用量の削減</p>

	<p>船びき網漁業者は前述の紀伊水道全体で取り組む漁獲・資源管理により、燃油使用料ほか経費の削減を図る。</p> <p>④漁業経営セーフティネット構築事業の加入 漁業者は漁業経営セーフティネット構築事業に加入し、燃油高騰対策を行い、燃油コストの増大を軽減し、経営安定化に努める。</p>
漁村の活性化のための取組	<p>①地域資源の活用による地域活性化 漁業者は和歌浦干潟でのアサリ再生の取組や環境学習、片男波海岸での観光地曳き網等、地域資源を活用した取組を進め、地域や都市住民との交流を深める。</p> <p>②漁業担い手の育成等による地域活性化 漁協及び漁業者は国、県及び市の支援事業の活用も図りながら担い手の確保・育成を行うとともに、認定漁業士が中心となって魚食普及や各種取組により地域漁業の振興及び活性化を進める。</p>
活用する支援措置等	<p>つくり育て管理する漁業推進事業（市） 二枚貝増殖補助事業（市） 漁業経営セーフティネット構築事業（国） 経営体育成総合支援事業（国） 次代につなぐ漁村づくり支援事業（県）</p>

4年目（令和10年度） 所得向上率（基準年比）17.6%

漁業収入向上のための取組	<p>○販路拡大、付加価値の向上及び消費拡大</p> <p>①地域ブランド「わかしらす」のブランド価値向上 漁協及び漁業者は、和歌浦湾で漁獲した「わかしらす」について、さらなるブランド価値向上のため、生産者による直接加工販売により漁港内で常時販売するとともに、年2回の朝市をはじめと井まつりなどイベント時の多くの来訪者にPRすることで、知名度向上に努め消費拡大を図る。</p> <p>②新たな特産品を目指したアサリ及びカキの生産確立 漁業者は、アサリについては、管理可能な保護ネットを設置し生産量の安定化を図り、直接販売施設やイベントで販売する。カキについては、免許取得を条件に沖合での養殖を展開し、安定した生産を図るとともに高単価で取引できる販路を開拓する。</p> <p>③漁業者直売「和海もん」の販売推進 漁業者は、当地区を含む和歌地区の漁業者直販地域ブランド「和海もん」の販売を引き続き実施し、知名度向上に努める。</p> <p>○水産資源の維持・増大</p> <p>①船びき網漁業の漁獲・資源管理による漁獲増大 船びき網漁業者は紀伊水道全域で取り組む資源管理協定（定期休漁日の設定）に加えシラスの来遊状況に応じた細やかな漁獲・資源管理（操業日及び操業時間制限）の取り決めを遵守し、シラス漁獲量の維持・増大を図るとともに、好不漁の波を抑えることで、単価のよいシラスの漁獲し、水揚金額の向上を図る。</p> <p>②地先増殖礁の保護及び種苗放流による資源増大 漁業者は和歌浦地先の増殖礁を保護し、重要種の増殖を図り、また和歌山市の協力のもとマダイ、キジハタ、イサキ等重要種の種苗放流を行い、資源の維持・増大を図る。</p> <p>③和歌浦干潟の保全による二枚貝増殖 アサリ等二枚貝増殖のためそれらの食害生物となるツメタガイ駆除を行い、干潟の保全と資源保護を行う。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>①省燃油活動による燃油使用量の削減 漁業者は減速航行、船底清掃といった省燃油活動の実施を継続することで、燃油使用量の削減を図る。</p>

	<p>②漁獲・資源管理による燃油使用量の削減 船びき網漁業者は前述の紀伊水道全体で取り組む漁獲・資源管理により、燃油使用料ほか経費の削減を図る。</p> <p>④漁業経営セーフティネット構築事業の加入 漁業者は漁業経営セーフティネット構築事業に加入し、燃油高騰対策を行い、燃油コストの増大を軽減し、経営安定化に努める。</p>
漁村の活性化のための取組	<p>①地域資源の活用による地域活性化 漁業者は和歌浦干潟でのアサリ再生の取組や環境学習、片男波海岸での観光地曳き網等、地域資源を活用した取組を進め、地域や都市住民との交流を深める。</p> <p>②漁業担い手の育成等による地域活性化 漁協及び漁業者は国、県及び市の支援事業の活用も図りながら担い手の確保・育成を行うとともに、認定漁業士が中心となって魚食普及や各種取組により地域漁業の振興及び活性化を進める。</p>
活用する支援措置等	<p>つくり育て管理する漁業推進事業（市） 二枚貝増殖補助事業（市） 漁業経営セーフティネット構築事業（国） 経営体育成総合支援事業（国） 次代につなぐ漁村づくり支援事業（県）</p>

5年目（令和11年度） 所得向上率（基準年比）18.0%

漁業収入向上のための取組	<p>○販路拡大、付加価値の向上及び消費拡大</p> <p>①地域ブランド「わかしらす」のブランド価値向上 漁協及び漁業者は、和歌浦湾で漁獲した「わかしらす」について、さらなるブランド価値向上のため、生産者による直接加工販売により漁港内で常時販売するとともに、年2回の朝市をはじめと井まつりなどイベント時の多くの来訪者にPRすることで、知名度向上に努め消費拡大を図る。</p> <p>②新たな特産品を目指したアサリ及びカキの生産確立 漁業者は、アサリについては、管理可能な保護ネットを設置し生産量の安定化を図り、直接販売施設やイベントで販売する。カキについては、免許取得を条件に沖合での養殖を展開し、安定した生産と販路確保により特産品化を図る。</p> <p>③漁業者直売「和海もん」の販売推進 漁業者は、当地区を含む和海地区の漁業者直販地域ブランド「和海もん」の販売を引き続き実施し、知名度向上に努める。（船びき網漁業以外の小規模漁業の発展を図る。は不要？）</p> <p>○水産資源の維持・増大</p> <p>①船びき網漁業の漁獲・資源管理による漁獲増大 船びき網漁業者は紀伊水道全域で取り組む資源管理協定（定期休漁日の設定）に加えシラスの来遊状況に応じた細やかな漁獲・資源管理（操業日及び操業時間制限）の取り決めを遵守し、シラス漁獲量の維持・増大を図るとともに、好不漁の波を抑えることで、単価のよいシラスの漁獲し、水揚金額の向上を図る。</p> <p>②地先増殖礁の保護及び種苗放流による資源増大 漁業者は和歌浦地先の増殖礁を保護し、重要種の増殖を図り、また和歌山市の協力のもとマダイ、イサキ、キジハタ等の重要種の種苗放流を行い、資源の維持・増大を図る。</p> <p>③和歌浦干潟の保全による二枚貝増殖 アサリ等二枚貝増殖のためそれらの食害生物となるツメタガイ駆除を行い、干潟の保全と資源保護を行う。</p>
--------------	--

<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>①省燃油活動による燃油使用量の削減 漁業者は減速航行、船底清掃といった省燃油活動の実施を継続することで、燃油使用量の削減を図る。</p> <p>②漁獲・資源管理による燃油使用量の削減 船びき網漁業者は前述の紀伊水道全体で取り組む漁獲・資源管理により、燃油使用料ほか経費の削減を図る。</p> <p>③省エネ機器導入による燃油使用量の削減 一部の漁業者は省エネ機器の導入を行い、燃費の向上を図り、経費を削減する。</p> <p>④漁業経営セーフティネット構築事業の加入 漁業者は漁業経営セーフティネット構築事業に加入し、燃油高騰対策を行い、燃油コストの増大を軽減し、経営安定化に努める。</p>
<p>漁村の活性化のための取組</p>	<p>①地域資源の活用による地域活性化 漁業者は和歌浦干潟でのアサリ再生の取組や環境学習、片男波海岸での観光地曳き網等、地域資源を活用した取組を進め、地域や都市住民との交流を深める。</p> <p>②漁業担い手の育成等による地域活性化 漁協及び漁業者は国、県及び市の支援事業の活用も図りながら担い手の確保・育成を行うとともに、認定漁業士が中心となって魚食普及や各種取組により地域漁業の振興及び活性化を進める。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>つくり育て管理する漁業推進事業（市） 二枚貝増殖補助事業（市） 競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国） 漁業経営セーフティネット構築事業（国） 経営体育成総合支援事業（国） 次代につなぐ漁村づくり支援事業（県）</p>

（５）関係機関との連携和歌浦観光協会、ベイサイド和歌浦（和歌浦漁港管理の指定管理事業者）、和歌山県漁業協同組合連合会等と連携し、各種イベントや魚食普及活動を実施するとともに、「わかしらす」や新たにアサリ及びカキといった和歌浦ブランドの向上を目指す。また、地元教育機関（小学校から高等学校）と連携し、干潟等の保全やアサリ増殖といった環境学習や水産教室、また増殖手法の効率化に向けた共同試験を実施する。

（６）取組の評価・分析の方法・実施体制

年度毎の取組評価は、評価対象となる漁業者から確定申告等の数値や各種取組について漁協を中心に再生委員会で実施し、国に実績報告を提出する。また評価を踏まえ取組を改善する。

４ 目標

（１）所得目標

<p>漁業者の所得の向上 10%以上</p>	<p>基準年</p>	<p>-----</p>
	<p>目標年</p>	<p>-----</p>

（２）上記の算出方法及びその妥当性

(3) 所得目標以外の成果目標

①所得向上の取組に係る成果目標

シラス単価の2%向上	基準年	令和元～5年度 5中3平均:	629	円/kg (単位)
	目標年	令和11年度:	641	円/kg (単位)

②漁村活性化の取組に係る成果目標

新規担い手の確保 (船びき網漁業)	基準年	令和元～5年度(累計):	0	人(単位)
	目標年	令和7～11年度:	3	人(単位)

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

<p>船びき網によるシラスの水揚量及び金額は各経営体からの申告による。単価向上は、紀伊水道で取り組む協定及び細やかな漁獲・資源管理により好不漁の波を抑え、小さすぎるサイズでの漁獲を控え単価の向上を見込めるサイズで漁獲することで、目標とする単価の向上は充分達成可能と見込む。</p> <p>船びき網漁業の新規担い手については、令和元～5年度累計で0人の実績から、国や県の支援事業を活用し担い手研修を実施するとともに、認定漁業者を中心として地域の活性化に努め、魅力を向上させることで、新たな地域の担い手を増加させることは可能と見込む。</p>
---

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
つくり育て管理する漁業推進事業(市)	和歌山市が中間育成した重要魚種(マダイ、キジハタ、イサキ等)を放流し、資源の増大を図る。
二枚貝増殖補助事業(市)	和歌浦干潟でのアサリの増殖及びカキ養殖について補助金を活用し、生産の安定化及び増産を図る。
競争力強化型機器等導入緊急対策事業(国)	省燃油の推進機関を導入し、経費の削減を図り漁業所得を向上させる。
経営体育成総合支援事業(国)	新規就業希望者を研修制度により、就業に必要な技術等の取得を支援し、担い手の増加を図り、漁村活性化に繋げる。
次代につなぐ漁村づくり支援事業(県)	新規就業希望者を研修制度により、就業に必要な技術等の取得を支援し、担い手の増加を図り、漁村活性化に繋げる。
漁業経営セーフティネット構築事業(国)	燃油の高騰対策として加入を推進し、経営の安定化を図る。